



新春鼎談

幸せには

いろいろなカタチがあるとイイ

特集

2021年を迎え、山口知事と、デザイン・スポーツの分野で活躍されている佐賀県出身の2人をお迎えしての新春鼎談。変容する社会の中で現在から未来を見据え、佐賀のまちづくりによって生まれる幸せのカタチについて語りました。

〔山口〕 あけましておめでとうございます。今日はお集まりいただき、ありがとうございます。水町さん、B2リーグでも佐賀バルナーズは大活躍ですね。

〔水町〕 ありがとうございます！昨年6月、高校卒業後20年ぶりに佐賀に帰ってきましたが、まち全体が洗練されていて驚きました。偉人たちのモニュメントもありますね。公園なども、雰囲気が変わりましたよ。

〔山口〕 「佐賀さいこうフェス」なんて高校生のころにはありませんでした。

〔西村〕 最近では県外でも「佐賀はデザインに力を入れてるね」と言われるようになりました。柔軟な変化が求められる現代で、まちづくりにおいてもチャレンジし続け変化する佐賀に可能性を感じます。

〔山口〕 まちづくりって成功と失敗を繰り返して、少しずつ良くなっていくものだと思います。嬉しいのは西村さんをはじめ、県内外の佐賀を感じます。

〔西村〕 楽しみです。そこで試合できることもワクワクしますし、目標であるB1リーグに昇格して、バスケットで佐賀県全体を盛り上げたいです。

〔山口〕 一緒に佐賀を盛り上げましょう！スポーツも自然環境も歴史文化も豊かな佐賀で暮らす中で、みんなが本質的な人間の幸せを感じてほしいです。その「みんな」というのは、年齢や性別、国籍や障がいのあるなしにかかわらずすべての人です。

〔西村〕 点字ブロックがあまりないヨーロッパでは、人と人が自然に助け合う社会があります。幸せな暮らしには、便利な仕組みやハードも必要だけど、お互いに助け合う心も育てたいですよ。

〔山口〕 ハードじゃなくて、ハートも重要なだよ。

〔水町〕 すごくいい言葉！

〔山口〕 今年も県民のみなさんが佐賀を「誇らしい」「愛しい」と思えるように、さまざまな取り組みを行います。もちろん、まずは県民の命と健康を守ることに全力を尽くします。その上で、佐賀の素晴らしさを世界の人達と共有できるふるさとを、みんなでつくっていきましょう。



山口 祥義
佐賀県知事



水町 亮介
佐賀県出身。元プロバスケットボール選手。現在は佐賀バルナーズのアカデミーコーチ兼アカデミーディベロップメントディレクター。



アオマング「サガ」シリーズとのコラボマンホールも登場！

大好きなクリエイターや地域の人たちがまちのデザインを磨いて一緒に盛り上げていくって、これっていいこと。

〔西村〕 昔から頑張っている地域の人たちも、社会の変化に応じて、まちの魅力をうまく引き出しているところがありますね。

〔山口〕 肥前浜駅周辺も、地域の魅力に多くの人が集まるイベントがありますね。近年、県外には同じような街並みばかりの地域が多くて、佐賀は文化・伝統・歴史の深みを感じられるまちにしようと思ってきました。先人たちに敬って大切に受け継がれてきたものを活かしながら、人を主役に、みんなで作り上げていくような場が好きです。

〔水町〕 「島義勇像前の交差点でさー」とかを日常的に話すような環境で育った子どもたちは佐賀をきつと誇りに思うでしょうね。

〔山口〕 交差点名や施設など、ネーミングも大切で、一つひとつ味を出すことによって、まちの景色や人の意識も変わっていくと思います。

〔水町〕 私は SAGAサンライズパークのアーリーナの完成も

ね。

例に、全国に波及していきま

賀の取り組みを代表

していきま



島義勇像前
Shima Yoshitake Statue

像建立地前の交差点に名前がつけました！

波戸岬キャンプ場
〔唐津市〕



After Before

〔西村〕 SAGAナイト

テラスチャレンジの企画

から実施まで約2週間というスピード感

には驚きました。佐賀の取り組みを代表

例に、全国に波及していきま

ね。

〔水町〕 私は SAGAサンライズパークのアーリーナの完成も



西村 浩
佐賀県出身。建築家・クリエイティブディレクター。SAGAサンライズパークのランドスケープデザインにも携わる。